

—文化の薫る活力ある地域づくりをめざして— 財団では、このような事業を行っています。

普及啓発事業

1. 財団ニュース「作州路」28号の発行
2. 普及講座の開催
「木に描く オリジナルうちわ作り」
講 師／牧野智子
期 日／令和7年2月15日（土）
会 場／勝央美術文学館
3. 事業協賛に伴うPR活動



「木に描く オリジナル
うちわ作り」の様子

芸術文化活動事業

- 【主催事業】
- 特別展の開催
- 小林正秀・中桐聡美展「風景のかたち」
会 期／令和6年11月9日（土）
～令和6年11月24日（日）
会 場／勝央美術文学館
展示室・特別展示室



「ミマサカコドモ絵画展」会場風景

- 公募展の開催
- 第21回ミマサカコドモ絵画展
会 期／令和7年1月7日（火）
～令和7年1月26日（日）
会 場／勝央美術文学館
展示室・町民ギャラリー1・2

- 作品展の開催
- gallery exhibition vol.36
上野沙織 川端万結子
春名真歩 牧野智子 作品展
会 期／令和7年2月15日（土）
～令和7年3月16日（日）
会 場／勝央美術文学館
町民ギャラリー1



「千田嘉博 歴史講演会」チラシ

- 講演会の開催
- 「千田嘉博 歴史講演会」
と き／令和6年12月15日（日）
会 場／勝央文化ホール

- 【共催事業】
- 企画展の開催
- 《文学》
- 小企画 44「俺たち綺堂門下生」
 - 木村毅生誕130年記念展「旅する木村毅」
- 《美術》
- コレクション展 vol.47
郷土の画家シリーズ 素描と淡彩XII

- 【助成事業】
- 芸術文化活動助成
 - 勝央金時太鼓保存会活動
 - 勝央町文化協会活動事業
 - シン・美育振興会♪仮)による「カツオ／シバキ」

- 【後援事業】
- 劇団四季ファミリーミュージカル
ガンバの大冒険
 - 森神 KINTARO
田島征三 森と命と ART の世界
 - ～歌三線・琉球箏・琉球笛が織りなす～
沖縄の音楽
 - SHOO ONKATSU GALA CONCERT
 - 大萩康司&江戸聖一郎
クラシックギター meets フルート

その他の事業

1. 文化財資料収集保存事業
2. 学術的研究及び図書の発刊事業への
助成事業を継続しておこなっております。

地域の文化活動を応援します！

地域芸術文化振興のための助成活動を実施
しております。詳しい内容は、財団事務局へ
お尋ねください。

当財団への皆様のご寄付を お待ちしております！

当財団への皆様のご寄付は、地域文化事業の
実施に役立てられています。
ご寄付をいただいた皆様は、税額控除をうけ
ることが出来ます。

編集後記

今回の「出雲街道宿場考」は、勝央町小矢田地区の
「小矢田城跡」について、木村泰二氏にご寄稿いた
だきました。きっかけは、昨年2月の勝央町文化協会
主催歴史探訪ウォークで、地元での「中世の山城」に
対する興味が高まり、それを受けて12月15日（日）
「千田嘉博歴史講演会」を開催。前日14日には、城郭
考古学者で名古屋市立大学 高等教育院 教授・奈良大学
特別教授の千田嘉博先生に城跡をご視察いただく事が
出来、塩見の若君や本陣・下山家との深い縁（えにし）
を感じた1年でした。（E.N）

公益財団法人 美作学術文化振興財団



Vol. 28
2025/3



表紙について【滝川から「小矢田城跡」を望む】

岡山県勝田郡勝央町小矢田地区にある「小矢田
城跡」は、滝川とその支流が交わる三角州に位置
する。現在は、鬱蒼とした雑木が生い茂るが、一
昔前は、丁寧に芝刈りをされ、地元の子どものた
ちの遊び場として親しまれた山であった。この奥に
続く谷は、昔から城谷（じょうだに）と呼ばれ、
往時の名残を地名にとどめている。



「千田嘉博歴史講演会」の前日に、講師の千田先生と赤木文化財保護委員長や
地元有志の方々と「小矢田城跡」に登った際の様子／2024年12月 事務局撮影

公益財団法人 美作学術文化振興財団

〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田207-4 Tel. 0868-38-0270 / Fax. 0868-38-0260

発行日：2025年3月31日
編集・発行：公益財団法人美作学術文化振興財団
印刷：（株）廣陽本社

勝田荘の戦国記——最後の城主千代丸の行方

勝央町岡 木村泰二

①下山本陣の古文書

勝央町の南部に位置する中世の勝田荘には、大和と出雲を結ぶ主要道が走り、諸々の文化を運んできた。慶長年間には森氏が入府し、この道の改修を行い江戸中期には参勤交代の道筋となり、宿場町として繁栄してきた。

この宿場には、津山藩専用下山本陣と他の藩主や宮家の宿泊する木村本陣があった。下山本陣の子孫である末澤るり氏（津山市在住）は勝央町文化財保護委員会委員長の赤木耕三氏を通して、勝央町に約千点の古文書を寄贈された。

早速この古文書を町民に開示するため、美術文学館で3回にわたり、古文書展が開催された。その中の戸倉城から小矢田城に至る古文書から思いもよらなかった史実の発見があった。



三星城趾から勝田荘を望む

②戸倉城から小矢田城へ

(a) 戸倉城

播磨・備前・美作の守護職であった赤松家は小矢田村に築城し、一族の戸倉弾正政祐を勝田荘の地頭に任命し、この城を与えた。

政祐は延元 4 年（1339）入城し戸倉城と称した。ここに地頭職として租税徴収・軍役・慎撫・周囲の諸城を監督することとなった。以後、嫡子茂祐と続き、孫祐也に至った時、守護の赤松満祐が嘉吉の乱を起こした。幕府は対敵の山名一族に満祐を攻撃する命令を下した。

作州路から赤松討伐軍を進めたのは、山名教清

である。山名の大軍に押され祐也は嘉吉元年（1441）降伏す。ここに戸倉 3 代 102 年にわたる支配は終わり滅亡したのである。

(b) 小矢田城

戸倉家滅亡の後、鎮西探題の北条英時の子孫である塩見定時が、赤松満祐を攻めた時の戦功により、嫡子貞満を勝田荘の地頭に任命した。貞満は文安元年（1444）戸倉城に入城し、地名をとって小矢田城に改めた。

彼は領内の民の安住のため開拓を奨励したり、無頼漢の侵入を荘の周囲の山を外郭として防ぐなど、領内の鎮撫に努めていた。以後、嫡子高之 2 代・その弟貞兼（左門兵衛）3 代・高之（九郎兵衛）の嫡子貞高 4 代・その子貞盛 5 代と続いた。

天文 13 年（1544）出雲尼子晴久の大軍が突如勝田郡に侵入してきた。湯郷荘の三星城主後藤勝基は、尼子家に通じその軍を誘導した。貞盛は対戦するだけの戦力もなく、戦火を放ち貞之・貞次の 2 子を携えて備前仁堀で、非業の死をとげ 5 代 100 年で滅亡した。

③公文荘、猪内城

嘉吉の乱で山名持豊（宗全）に従った備中国の北条時氏の玄孫氏吉の戦功により、美作国勝田南郡公文荘の地頭に任命され、嘉吉元年（1441）大仙山頂に築城した。氏吉の嫡男清氏が城主の時、地名をとって下山氏と改める。

天文 13 年（1544）出雲尼子晴久の侵攻により、三星城主後藤勝基は尼子勢を誘導して共に猪内城を攻め寄せた。城主清氏・弟久氏は応戦するが、大軍に抗すすべもなく落城する。

勝基は尼子が滅亡した弘治 2 年（1556）、知略をもって英田・勝田両郡を抑え武威をふるっていた。しかし、天正 7 年（1579）宇喜多直家の急襲によって三星城は陥落する。

清氏の子六左衛門は後藤家に仕えていたが、宇喜多秀家に仕えるようになり、その子六之助は小早川秀秋が備前・美作を領していた時点で、

許しを得て勝間田村に移住する。他の一族は近辺に帰農することとなった。

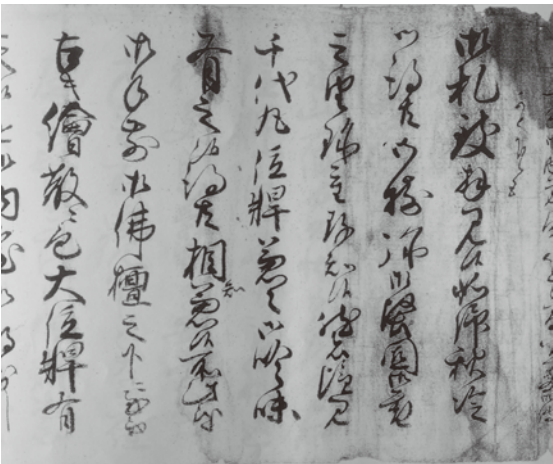
④塩見家の末裔

塩見貞高（塩見家 4 代九郎兵衛）の家老であった清水新左右衛門は小矢田城落城後、後藤家に仕えていた。三星城落城の時、九歳であった塩見家の若君千代丸を脱出させ、間山真福寺に身を隠した。ほどなく間山も戦火で焼失し、千代丸は遺臣と共に下山家をたよって勝間田村に隠れ住むが、行方知れずとなっていた。

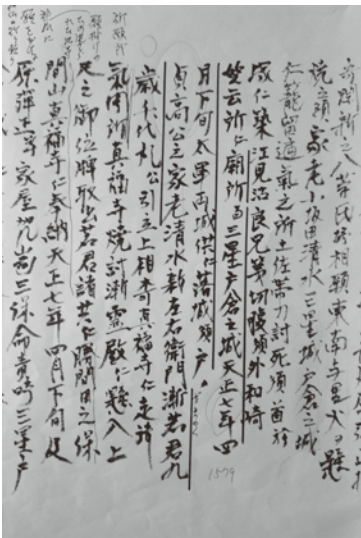
ところが、赤木耕三氏が多くの下山家古文書を整理・調査中に手にしたのは、江戸期の文化・文政の頃と思われる手紙文であった。それは塩見家の重臣の末裔と思われる塩川洋右衛門が下山本陣の下山六郎兵衛に宛てたものである。

内容は、塩見千代丸の位牌を以前から調べていたが、よく解らないままになっていた。ところが、貴殿の佛壇の下にあった千代丸の位牌を奥さんが見つけたらということを書面でいただきよく解りました。その上、塩見九郎兵衛夫婦位牌（4 代貞高）も左兵衛督の位牌（3 代貞兼）も知ることができ、喜びのきわみですということであった。これにより、最後の城主塩見千代丸が下山家に居住し、寛永年間まで生きていたことが判明した。

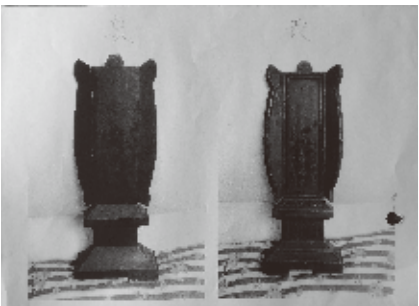
差出人・受取人に伝える文書は貴重な古文書である。末調査の古文書が出ればそれを解釈することで、今ある歴史は一変する。従ってこの古文書の内容から、勝央町の戦国史に新しい 1 ページが飾られることとなった。



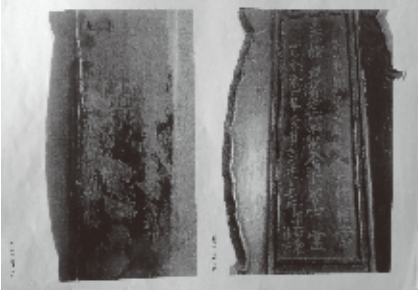
下山家手紙古文書



木村家家系図



千代丸の位牌



下山家佛壇

【参考文献】

- ・勝田郡志、勝田郡役所、大正元年
- ・勝間田町誌、権田甚四郎、昭和 2 年
- ・美作古城史、寺坂五夫、昭和 33 年
- ・勝田郡誌、国政寛、昭和 33 年
- ・勝央町誌、発刊委員会、昭和 59 年
- ・スーパー日本史、平成 15 年
- ・下山家手紙古文書、江戸期
- ・木村家家系図、江戸期